

○原子力事業所安全協力協定加盟事業所総合訓練見学会

平成30年1月17日（水）、日本原子力研究開発機構 大洗研究開発センターにおいて、平成29年度総合訓練が行われ、協定加盟4事業所より6名の方が見学に参加されました。

この訓練は、茨城県沖を震源とする地震（地震規模M7、大洗町・銚田市：震度6弱）が発生。センター内の高温工学試験研究炉（HTTR）及び固体廃棄物前処理施設（WDF）の2施設が同時に被災。東電大洗1・2号線に被害が生じ、センター内の外部商用電源が全て喪失。各施設の非常用電源系統は正常に起動したが、HTTRでは、制御棒の挿入ができず原子炉の自動停止に失敗。更に非常用発電機が停止し、直流電源も喪失する事象から、原子力事業者防災業務計画に基づく全面緊急事態に至ったとする想定で訓練が行われました。また、WDFにおいては、廃液処理中の作業者が負傷するとともに、廃液を飛散させ身体汚染が発生したとの想定で訓練が行われました。

HTTRでは、原災法第10条及び15条事象に対する緊急時の対応訓練、グリーンハウスを用いた放射線防護具の脱着訓練等が行われました。一方、WDFでは、身体汚染を伴った負傷者の救護活動訓練等が行われました。また、現地対策本部では、現地対策本部要員の招集訓練並びに人員点呼及び施設等点検結果の集約・報告訓練が行われ、最後に模擬プレス対応訓練が行われました。

訓練概要の事前説明を受けた後、13時30分の緊急地震速報を合図に訓練が開始され、協定加盟事業所より参加した見学者は、現地対策本部、HTTR現場指揮所、WDF現場指揮所、WDF周辺でのガレキ撤去、放射線管理棟での負傷者の身体除染、HTTR非常用発電機への給油、最後に模擬プレス会場を順次移動しながら見学しました。



現地対策本部



現場指揮所



グリーンハウス



緊急被ばく医療訓練



非常用発電機への給油



プレス対応訓練